

阿武隈川とかわまちづくり

1. 阿武隈川流域の概要と事業紹介
2. かわまちづくり支援制度の概要と事例紹介

国土交通省 東北地方整備局
福島河川国道事務所長 望月 貴文

1. 阿武隈川流域の概要と事業紹介

阿武隈川流域の概要

福島河川国道事務所では、
福島県内の約135kmを管理



項目		諸元	備考
流路延長		約239km	全国第6位
流域面積		約5,400km ²	全国第11位
流域内諸元	市町村	福島県	8市10町8村
		宮城県	4市8町
		山形県	1市
		合計	13市18町8村
流域内市町村人口		約128万人	令和2年度国勢調査結果

令和4年3月時点

阿武隈川流域の環境

- 源流部は、**ブナ**や**ナラ**類等の広葉樹林帯を流れ、**イワナ**など淵や瀬の連続する溪流に生息する魚類が多く生息する。
- 上流部は、**オオムラサキ**の生息場となる**エノキ**等の樹林が形成されている。流れも緩やかで、**ドジョウ**等の緩流域を好む種の生息が確認されている。
- 中流部は、川幅が広くなり流れも緩やかで、天然の**アユ**や**サケ**、**サクラマス**が信夫ダム直下まで遡上する。早瀬付近は**アユ**や**サケ**の産卵場となっている。

河川の区分と自然環境



源流部



ブナを主体とした原生林が分布。

上流部



流れも緩やかで沿川には郡山市等の都市が形成。

阿武隈峡



阿武隈峡は、急流で岩肌が露呈し、蛇行を繰り返しながら流れる。多くの奇岩が点在。

中流部



福島市街地が形成。川幅もやや広くなり、流れも緩やか。

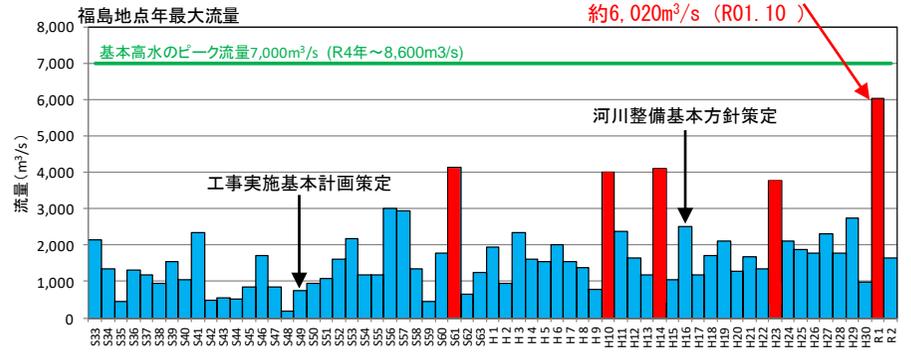
阿武隈川の水害の歴史

○近年においても、昭和61年8月洪水、平成10年8月洪水、平成14年7月洪水、平成23年9月洪水により浸水被害が発生
 ○令和元年東日本台風（台風19号）により、戦後最大の出水を記録した昭和61年8月洪水をさらに上回る出水となった

洪水の発生状況

洪水発生年	流域平均2日雨量		実績流量 (m³/s) (水位 (m))		被害状況
	福島	岩沼	福島	岩沼	
昭和13年 9月 1日 (台風)	169.5	164.5	3,320	4,430	床下浸水 2,918戸 床上浸水 1,068戸
昭和16年 7月23日 (台風8号)	240.6	228.0	4,310	5,450	床下浸水16,582戸 床上浸水17,708戸
昭和22年 9月15日 (カスリン台風)	181.3	170.6	1,880	3,400	床上床下浸水合計 33,470戸
昭和23年 9月17日 (アイオン台風と低気圧)	178.0	181.0	3,780	4,450	床下浸水24,558戸 床上浸水18,834戸
昭和25年 8月 4日 (台風11号)	126.0	149.2	1,670	3,170	床下浸水17,097戸 床上浸水 8,414戸
昭和33年 9月19日 (台風21号)	—	157.0	—	(6.72m)	床下浸水29,233戸 床上浸水 9,549戸
昭和33年 9月27日 (台風22号)	143.1	156.7	2,140	4,730	
昭和41年 6月29日 (台風4号)	148.2	138.7	2,340	3,660	床下浸水 一戸 床上浸水 一戸
昭和41年 9月25日 (台風26号とその温帯低気圧)	141.1	130.1	2,200	3,580	床下浸水 一戸 床上浸水 1,935戸
昭和46年 9月 1日 (台風23号)	136.6	154.6	1,710	2,920	床下浸水 357戸 床上浸水 37戸
昭和56年 8月23日 (台風15号)	166.7	164.0	3,010	3,910	床下浸水 176戸 床上浸水 24戸
昭和57年 9月13日 (台風18号)	131.4	140.6	2,950	5,730	床下浸水 4,204戸 床上浸水 675戸
昭和61年 8月 5日 (台風10号とその温帯低気圧)	233.5	248.2	4,140	7,590	床下浸水11,733戸 床上浸水 8,372戸
平成元年 8月 7日 (台風13号)	127.2	160.9	1,960	5,240	床下浸水 668戸 床上浸水 412戸
平成 3年 9月19日 (台風18号)	136.1	126.3	2,350	3,170	床下浸水 273戸 床上浸水 79戸
平成10年 8月30日 (停滞前線と台風4号)	215.8	189.5	4,030	5,400	床下浸水 1,713戸 床上浸水 1,877戸
平成14年 7月11日 (台風6号)	220.9	220.6	4,120	6,690	床下浸水 886戸 床上浸水 605戸
平成23年 9月21日 (台風15号)	218.4	214.6	3,760	4,500	床下浸水 873戸 床上浸水 1,655戸
平成27年 9月9日 (台風18号及び豪雨)	126.0	156.0	2,297	4,687	床下浸水 56戸 床上浸水 32戸
平成29年10月23日 (台風21号)	157.3	156.9	2,758	4,222	床下浸水 79戸 床上浸水 16戸
令和元年10月12日 (台風19号)	250.9	273.3	6,018	9,140	床下浸水 3,115戸 床上浸水10,519戸

福島基準地点の年最大流量



●昭和61年8月洪水の被害状況



家屋の浸水被害が発生した (伊達市)

●平成14年7月洪水の被害状況



水位の上昇に不安を浮かべる住民 (本宮町)

●平成10年8月洪水の被害状況



河岸崩壊の拡大を防ぐシート張り (福島市)

●令和元年10月洪水の被害状況

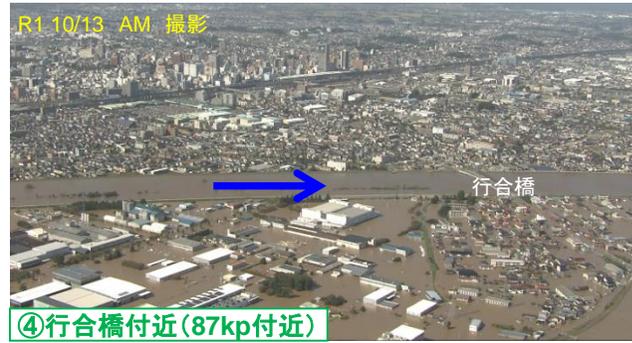


阿武隈川と谷田川の氾濫により大規模な浸水被害が発生した (郡山市)

令和元年東日本台風の浸水被害



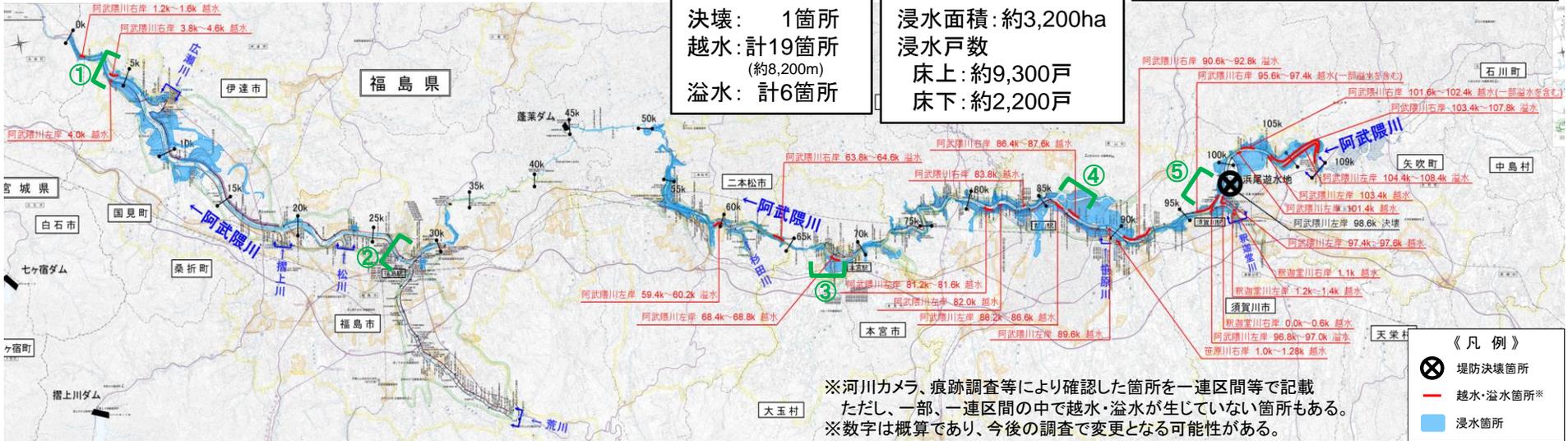
①伊達市五十沢付近(4kp付近)



④行合橋付近(87kp付近)



98.6k 左岸 堤防決壊 (須賀川市)



②荒川合流点付近(28kp付近)



③安達太良川合流点付近(68kp付近)



⑤釈迦堂川合流点付近(97kp付近)

「阿武隈川緊急治水対策プロジェクト」

～本川・支川の抜本的な治水対策と流域対策が一体となった総合的な防災・減災対策～

- 令和元年東日本台風に伴う洪水により、阿武隈川では多数の越水・溢水、堤防決壊等に加え、大規模な内水被害が発生するなど、流域全体で甚大な浸水被害となった。
- 現在、関係機関が連携し、ハード整備・ソフト対策が一体となった流域全体における総合的な防災・減災対策により、浸水被害の軽減、逃げ遅れゼロ、社会経済被害の最小化を目指している。

【ソフト対策】

② 減災型都市計画の展開

→沿川地域における住まい方、まちづくりの工夫の推進

例：浸水リスクを考慮した「立地適正化計画」の展開 など

【ソフト対策】

③ 地区単位・町内会単位での防災体制の構築

→的確な避難行動に資するきめ細かな情報提供等の推進

例：支川や内水も考慮した「タイムライン」の整備・改良 など

【ハード対策】

① 河川における治水対策の推進

全体事業費：約 1, 8 6 6 億円

→本川の水位を低下させる対策、支川における堤防強化等の治水対策を推進

【ソフト対策】

④ バックウォーター

も考慮した危機管理対策の推進

→本川合流部周辺における支川の減災対策の推進

例：本川の背水影響が及ぶ区間への「危機管理型水位計」及び「カメラ」の設置 など

【ソフト対策】

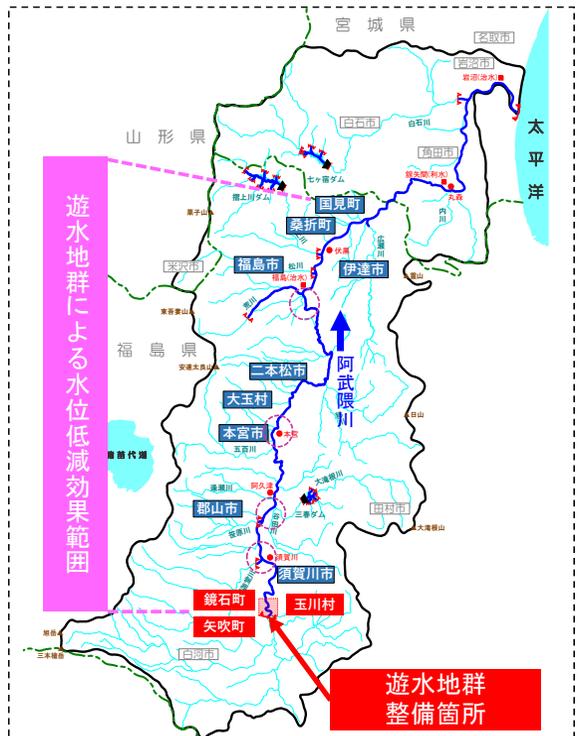
⑤ 市町村の実情に応じた減災の取り組み

→地域の特性等を踏まえた各種減災対策の推進

阿武隈川上流遊水地群の整備

新たな遊水地群の整備

令和元年東日本台風による甚大な被害を踏まえ、浸水被害軽減に向け阿武隈川上流（鏡石町・矢吹町・玉川村）に新たな遊水地群を整備中



下流域の浸水被害の軽減に向けて（令和元年東日本台風浸水被害状況）



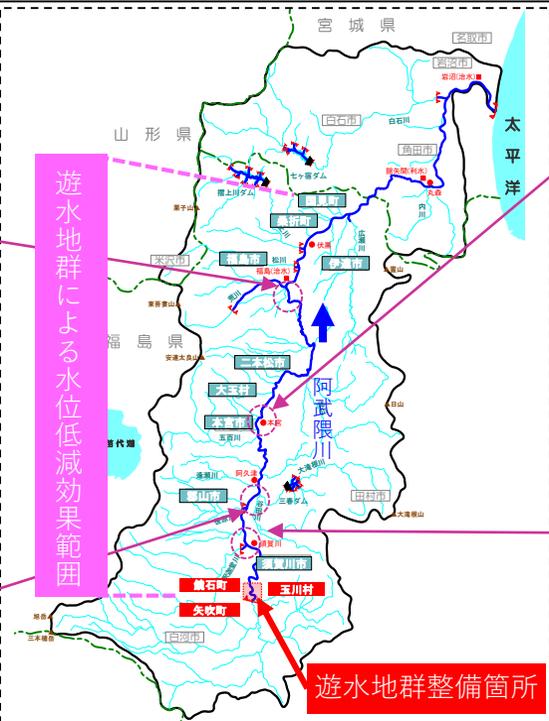
阿武隈川上流遊水地群の効果

「阿武隈川緊急治水対策プロジェクト」の治水対策を実施することにより、令和元年東日本台風と同規模の洪水が発生した場合、事業実施前と比べて『河道掘削と遊水地群整備』により水位を低下させ、堤防からの越水を回避し、流域における浸水被害の低減を図る。

福島市 河道掘削＋遊水地群整備で期待される効果…約0.1m水位低下



郡山市 河道掘削＋遊水地群整備で期待される効果…約1.0m水位低下



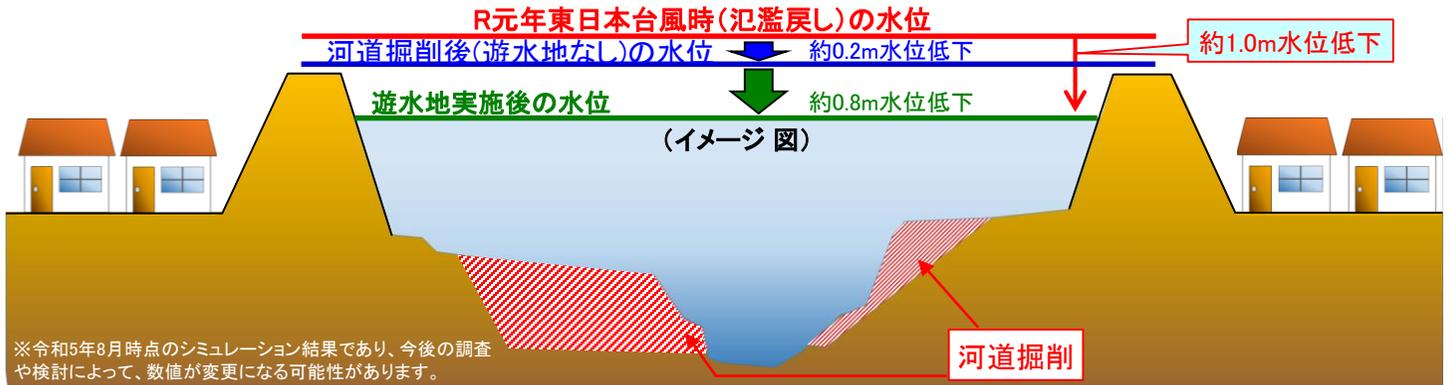
本宮市 河道掘削＋遊水地群整備で期待される効果…約0.5m水位低下



須賀川市 河道掘削＋遊水地群整備で期待される効果 約2.4m水位低下

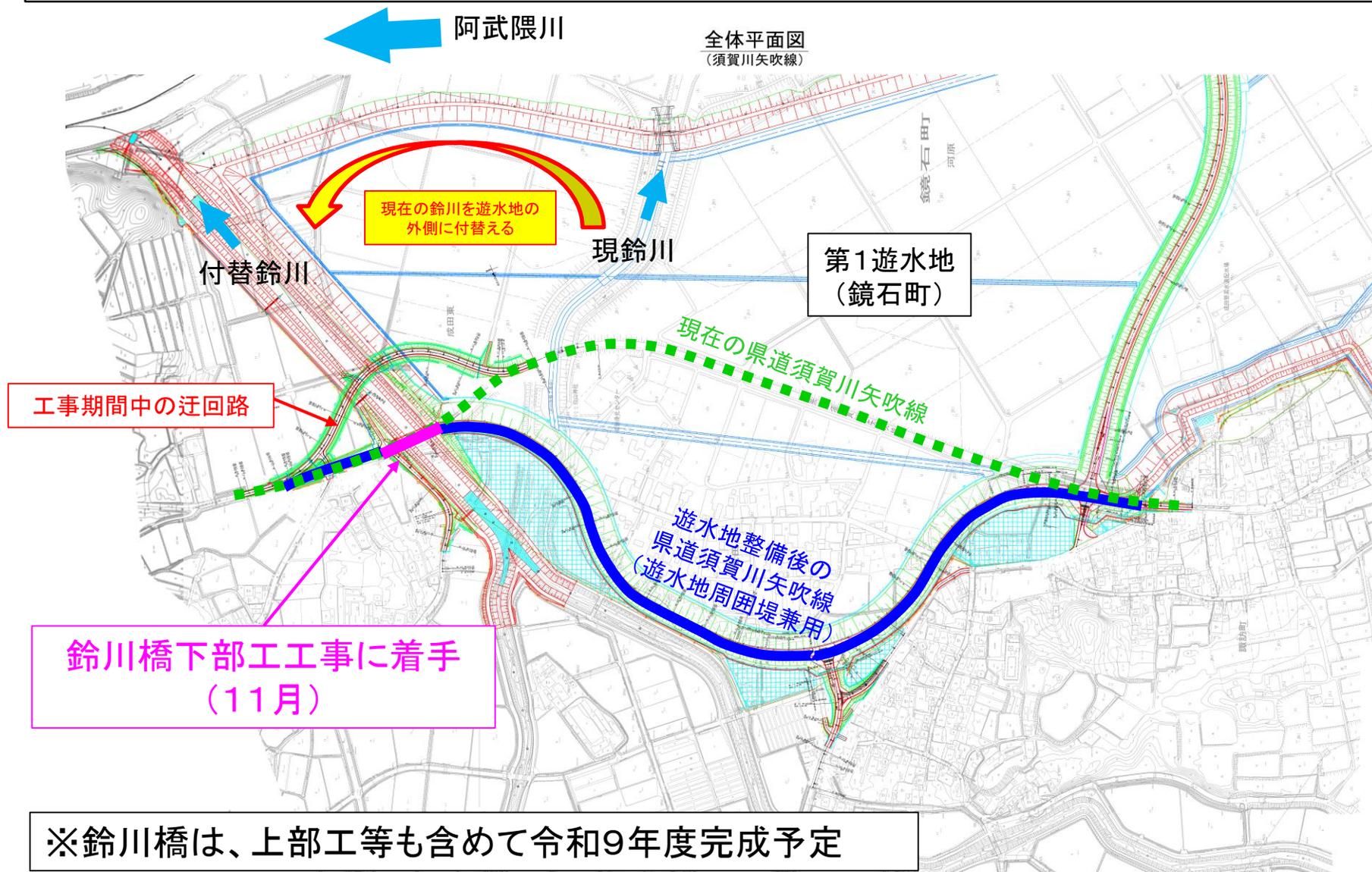


【阿久津水位観測所地点(郡山市)の水位低減効果】



遊水地関連では初の工事「鈴川橋下部工工事」に着手

○遊水地関連では初の工事として、令和6年11月から、支川鈴川の付替えのため新たに必要となる鈴川橋下部工工事に着手。



2. かわまちづくり支援制度の概要 と事例紹介

「かわまちづくり」支援制度の概要

河口から水源地まで様々な姿を見せる河川とそれに繋がるまちを活性化するため、地域の景観、歴史、文化、観光基盤などの「資源」や地域の創意に富んだ「知恵」を活かし、市町村、民間事業者及び地元住民と河川管理者の連携の下、河川空間とまち空間が融合した賑わいある良好な空間形成を目指す。（令和7年1月時点：264地区）

ソフト施策による支援

- ・都市・地域再生等利用区域の指定等によるオープンカフェなど河川空間の多様な利活用の促進
- ・優良事例に関する情報提供や必要な調査等により、計画の実現を支援

都市・地域再生等利用区域の指定の適用事例



水面上遊歩道のイベントや舟運等での活用
(道頓堀川/大阪市)



河岸緑地へのオープンカフェの設置
(京橋川/広島市)

先進的な取組の情報提供



民間事業者のエリアマネジメントによる管理・運営(信濃川/新潟市)



河川敷広場への新たな賑わい拠点の整備
(木曾川/美濃加茂市)

ハード施策による支援

- ・治水上及び河川利用上の安全・安心に係る河川管理用通路や親水護岸等の施設整備を通じ、まちづくりと一体となった水辺整備を支援。
(市町村、民間事業者が河川空間の利用施設を整備)



河川管理用通路の利用
(最上川/長井市)



親水護岸の利用
(新町川/徳島市)

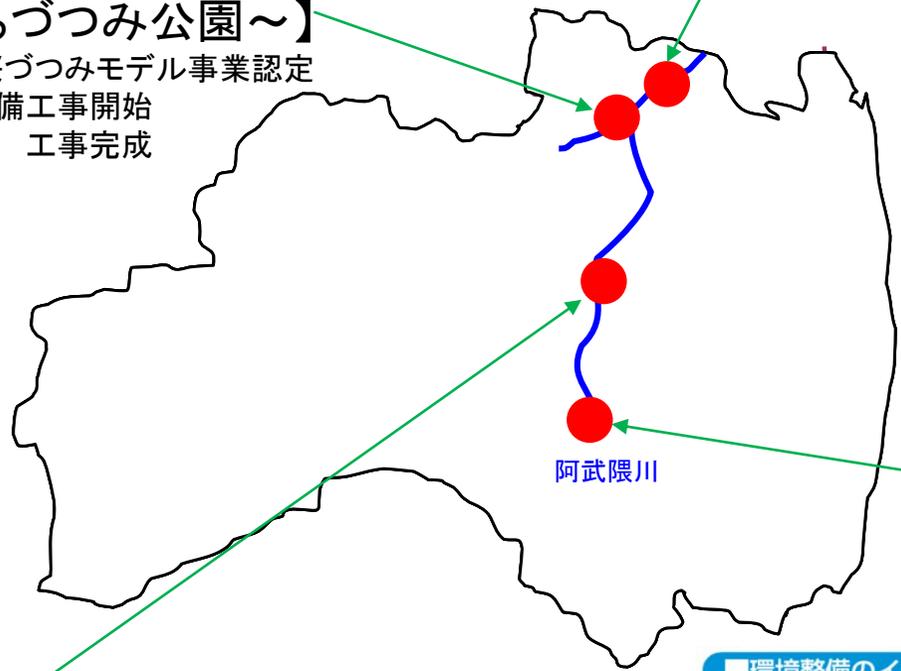
「都市・地域再生等利用区域」として指定することで、河川区域内での営業活動が可能となります。

阿武隈川上流域における「かわまちづくり」

【桜つつみ事業

～荒川さくらつつみ公園～

H元年度: 荒川桜つつみモデル事業認定
 H2年度: 側帯整備工事開始
 H4年度: 工事完成



【かわまちづくり事業～桑折地区～

R1～R10予定・桃の郷ポケットパーク周辺・伊達崎排水機場周辺



【かわまちづくり事業

～玉川村乙字ヶ滝地区～

R3～R12予定

・乙字橋・乙字ヶ滝

■環境整備のイメージ



【水辺の利活用

～本宮市中条地内ゆめ広場～



河畔広場のイベントの様子



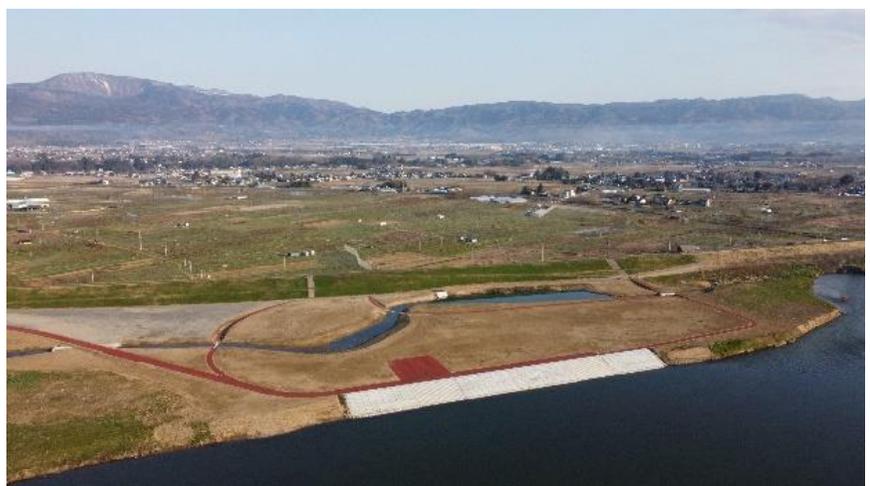
管理用通路の活用(キッチンカー)

桑折地区かわまちづくり

事業実施の効果

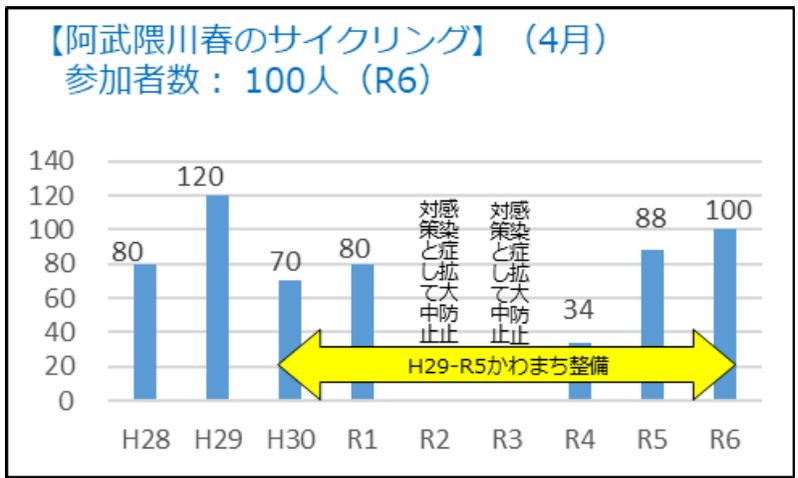
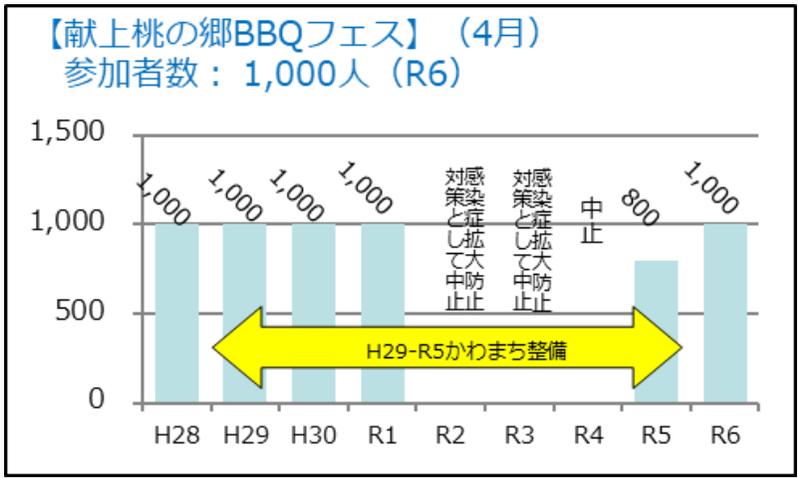


実施前は、水辺に近づける場所がなく、かわとの接点が少なく、親しみが感じられなかった。



実施後は桃源郷と一体的に多様な水辺体験・健康増進に寄与する空間整備を図ります。

イベント参加者数



ふくしま荒川地区まちづくり

事業実施の効果

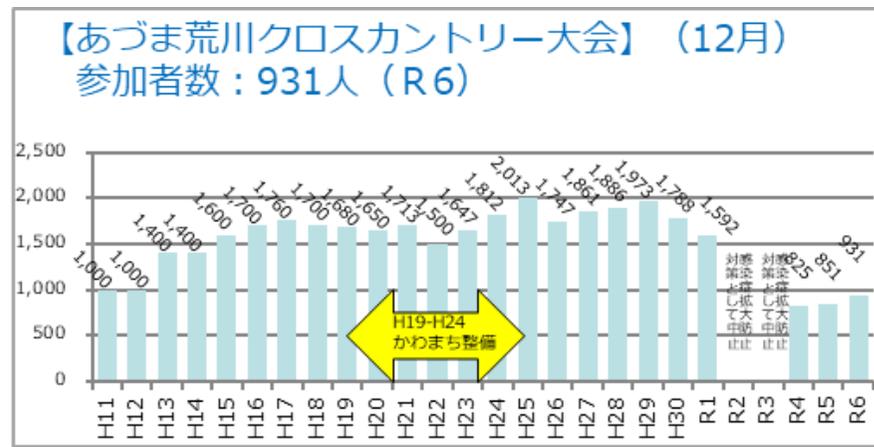
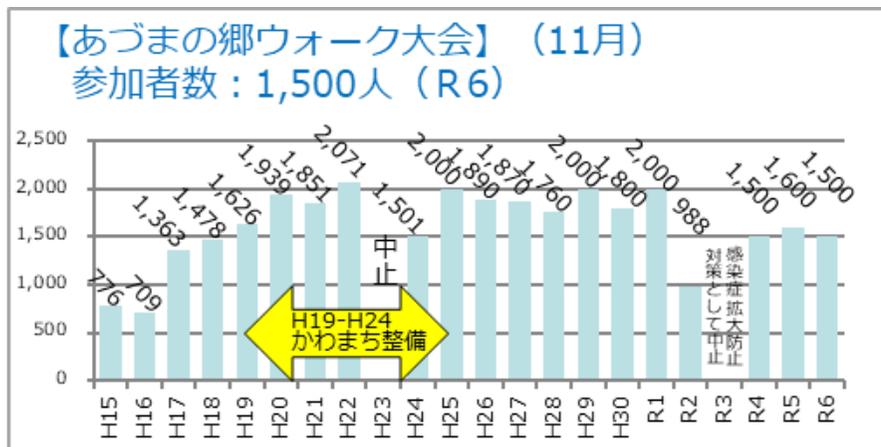


実施前は、仮設のため出水で削られたり、ぬかるんだり不安定だった。幅も狭かった。



実施後は、メンテナンスしやすくなり、足元が安定。幅も広くなり、安全になった。

イベント参加者数



本宮地区かわまちづくり

事業実施の効果



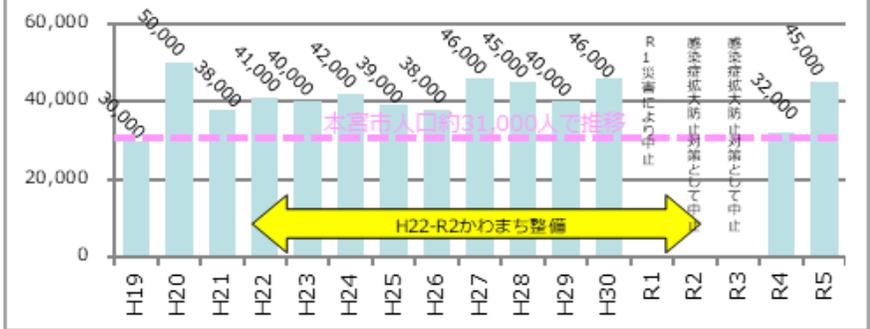
実施前は、堤防道路幅が狭く、車のすれ違いが困難だった。



実施後は、堤防道路が広くなり、また、歩道と車道の色を分けたことで安全性が高まった。

イベント参加者数

【もとみや秋祭り】（10月）
来場者数：45,000人（R5）



近隣小学校へ通う児童が安全に通行できるようになり、通学路としての利用が増えた。

玉川村乙字ヶ滝かわまちづくり



実施前は隈研吾氏設計の蕎麦屋だったが、廃業し、空き店舗となっていた。

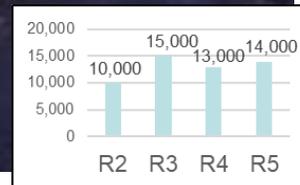


実施後は河川に面した施設での飲食や、カヌー体験等を行う新たな水辺の賑わいと、交流を促進する拠点として整備します。
(撮影日:R6.9)

イベント参加者数



【ライトアップ光の乙字ヶ滝】
参加人数：14,000人 (R5)



実施後は乙字ヶ滝の展望や、水辺での親水活動を促進させる空間整備を図ります。
(撮影日:R5.3)

河川を利用した地域づくりイベント

【最近の開催状況】

阿武隈川春のサイクリング
(R6.4.27)



ピーチリパーク157フェス2024
(R6.4.27)



あらかわ・ふるさとの川ウォーキング
(R6.6.9)



ミズベリング(水辺で乾杯2024)
(R6.7.7)



合同開催